

11日 健友ネット集会

2月 黒井秋夫さんが講演

2月11日に開催する健友ネット集会では、午後特別分散会を設け、黒井秋夫さんに講演していただきます。

黒井さんは、1948年生まれの現在77歳。父の慶次郎さんは1932年、20歳の時に徴兵され、延べ6年間兵役に就きました。戦争から戻った慶次郎さんは、無気力で定職に就かず、仕事を転々



黒井秋夫さん



とし、生活は苦しかったといひます。そんな父を見て「こんな大人にはなりたくない」と思ひながら過ごし、父親の死から26年後、「戦地から帰った父親はPTSDだったのでは」と感じるようになりました。

黒井さん自身が調べる過程でPTSDの事実を記録した当時の資料は焼却され、国は精神を病む

二度と戦争をしない日

全国青年ジャンボリーが
開催されました!!!

2年弱の準備期間を経て、「第41回全国青年ジャンボリーIN兵庫」が11月27～29日に神戸市で開催されました。

医療サービス課

西川 拓臣

そもそも「全国青年ジャンボリーとは？」ですが、「ひとりぼっちの青年職員をつくらない」を合言葉に共に学習・交流する活動として、2年に一度、民医連で働く青年職員が一堂に集まる大型交流企画です。



私は今回、東海・北陸地協の事務局として参加しました。開催地・開催形式決めから二転三転、実行委員と全

本、誰もが安心して暮らせる社会につながるためにも、改めて学び、考えてみませんか？ ぜひご参加をお待ちしております。

自治体キャラバン 岩倉市

社会保障の充実を求めて

市と住民が社会保障の充実を求めて懇談する自治体キャラバンが10月末～11月に行なわれまして。岩倉市での懇談について報告します。

介護を受けやすく

岩倉介護保険サービスセンター ちあき

吉田 智子

すこやかタクシー助成の申請について確認しま

日本側の意見が衝突したり、途中、本当に全国ジャンボリーが開催できるの？とまで感じるほどでしたが、終わってみれば大成功だったと思います。

特養ちあき第一

毛井 小夏

民医連の職員をしていてもなかなかできない経験で、この経験を胸にこれからの業務に臨みたいと思います。

参加者の声

医療サービス課

峯松 佳世

災害跡地を巡るフィールドワークでは震災の現実に触れ、災害を自分ごととして考えるきっかけになりました。防災セン

※PTSD 心的外傷後ストレス障害。命を脅かすような強烈な体験をきっかけに発症し、フラッシュバックなど不安や緊張で生活に支障をきたす

した。タクシーを利用する方は外出が難しく、市役所へ再度申請に行くことが困難な状況です。一度申請をしたら、翌年より手続きなしでタクシー券が郵送してもらえらるようになります。市では、老人クラブで取りまとめるなどの工夫もされているようですが、「申請方法など、ほかの市町と同じように検討をしていきます」とのことでした。

ほかの参加者からは「ふれあいタクシーの利用について、現在は市内の病院送迎に限定されているため、近隣他市への病院送迎ができる仕組みづくりも検討してほしい」と意見がありました。タクシー運転手不足もあるそうですが、高齢者の足として利用しやすい「ふれあいタクシー」が実現できるようにすることを願っています。

生活保護について

医療福祉相談室

佐藤 和栄

生活保護について発言しました。ホームレス状

尾張健友福祉会だより

ホームページ <http://www.chiaki.com/fukushi>美味しい食事と紅葉に
笑顔があふれました

岩倉デイサービスセンター・ちあき

「お天気もよくて、みんなで来られて本当によかったね。日頃の行ないがよかったんだね」。皆さんが口をそろえて何度も話していました。

美味しい食事の後は
園内を散策

昨年の秋の外出は穏やかな陽気に恵まれ、すいとびあ江南の翠江亭での外食と公園内の紅葉散策へ出かけました。ここへは初めてではない方もいたため、その時の記憶もたどりながらの時間でした。車内も盛り上がり、それだけでも楽しい時間です。「あなたは何にするの!!」「それも美味しそう」「迷うわね」「こんなにたくさん食べられるかしら!!」と、若いころに戻ったかのようにウキウキとおしゃべりする姿が印象的でした。

介護福祉士

瀬戸山 真弓

態の方が生活保護の申請を希望して何度か市に相談したもの、入所できる施設が見つからず申請ができなかったという事例を経験したため、困っている人に寄り添った支援をお願いしました。担当者からは、「ホームレス状態の方から生活保護の相談を受けた場合、まず住まいを確保することが大事だと考えており、愛知県が認める無料低額宿泊所への入所を進めている。施設の定員に制約があるものの、ま

ずは居所を確保し、支援につなげられるようできる限り取り組んでいる」との返答がありました。声を上げ続けます。市への要請は、お金に困るため、すぐには賛同いただけず「検討します」で終わってしまいうケースばかりでした。しかし、組織の方々も、何年も何年も根気よく伝え続けていくそうです。物価高騰、社会保険料の上昇など、市民の生活が困難である今こそ、み